

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第52号（準備会から通算第73号）

発行日 令和3年8月7日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 山崎 徳次郎

・・・点字とは？・・・

点字とは視覚障がい者が指で読む文字で、見たこと、触ったこと有りますか？
少し厚手の紙に、小さな突起で、2列3段の6つの突起の位置を変えて、一文字を表し、突起を左から右へ読みます。6つの突起の組み合わせでかな50音、数字、アルファベット表記します。例えば1列の最上段の突起一つであれば、「あ」と読みます。以前、点字本を作るボランティア活動をしようと思い、点字の6ヶ月講習コースを受講したことがあります。とても小さな突起で、これを識別する繊細な指の感覚が必要ですが私のごつごつした手の指では無理と悟りました。修了証書は頂きましたがそれ以後活動はしていません。

点字の歴史はナポレオン時代のフランスの大尉が夜間指先の触覚だけで読める12点の暗号文字として考案し、その後盲人用文字として改良。パリの盲学校に持ち込みました。

その盲学校の生徒がこの12点の点字を改良し、1825年に6点の点字を考案。1854年にフランス政府から正式の文字として認められ、今では世界各国がこの6点点字を用いています。

日本では1890年（明治23年）に東京盲聾学校教員の石川倉次（1859～1944）がローマ字の点字から日本語の50音点字を考案し、1901年（明治34年）文部省から正式に日本点字として認められ現代に至っております。

校区住民協代表 山崎 徳次郎

令和3年7月度役員会

開催日時と場所：2021年7月3日（土）

議題

(1) 事務局からの連絡事項

①久木朝市開催の件

7月11日開催予定で、過去最多の15店舗が出店予定、又細野氏手配の三浦スイカの販売、みんなの食堂同時開催でアメリカンドッグの販売を予定している。

②山の根踏切廃止の説明会開催の件

本件に関し過去5回協議会が開催されたが、今回

13時30分～15時45分、久木会館 参加者25名
(内役員14名)

唐突に7月11日10時から、JRより廃止の説明会を開催するの連絡があった。廃止反対の立場で出席可能の人の参加要請があった。

③住民協フェースブックの試行について

岡田会員より、概要・アクセス・利用方法について解説があった。又門脇役員から若い世代に住民協を知ってもらうツールになることを期待して登録した旨報告があった。

(2) 審議事項

①「逗子の地域福祉」についての説明と討議

逗子市福祉部 広川次長 /地域共生係 大阪係長により、配布資料②に基づき、逗子市の社会福祉

の取り組み/今後の展開等について説明があった。また、中部包括センター、西部包括センターより、配布資料③に基づき、支援の事例について

の説明があった。

説明の後、意見交換が実施され、施策の遂行に帰する疑問、住民側との問題の捉え方のズレ等、種々意見が交わされた

今後、行政と住民との共通認識の醸成を鑑みて、住民協/ふれあい部会に、行政側からの参加を要請した。

《事務局からのお知らせ》

◆朝市に三浦スイカを提供

7月11日に開催された朝市に、現地在住の細野裕さん(トピックスの欄参照)のお世話で三浦スイカを提供、瞬く間になくなりました。今後、新鮮な地産野菜を皆様に提供することを考えてみたいと思います。

◆逗子社協の代表に岸原晃さんが就任

当会会員である逗子市社会福祉協議会の代表に、7月から若菜敏孝さんに代わり岸原晃さんが就任されました。尚、岸原さんは逗子市点字奉仕会の会長を務めておられます。

(皆様のお手元にある住民協会会員名簿の改訂をお願いします。)

◆久中防災教育にサポーターとして参加

6月25日に行われた久中1年生を対象にした防災教育に、サポーターとして24名の方々が参加、地域から住民協、避難所準備会、自治会の関係者が参加し、生徒と一緒に避難所開設の訓練を行いました。(小林さんのレポート参照)

◆地域の危険個所を調査し報告

減災部会では市からの依頼を受けて、校区内の崖崩れ危険個所を含む災害危険個所を調査し、15か所について市へ6月26日付で報告しました。

《レポート》 久木中学校「福祉防災体験学習」に参加して

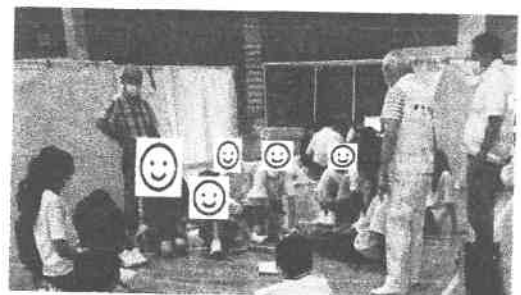
校区住民協副会長 小林 寿志

久木中学校のグランドデザインの中に「防災教育の充実」が明記されております。その一環として毎年1年生を対象として「福祉防災体験学習」が実施されています。これは、地域の様々な防災関係団体が学校と実施内容について事前に協議し、生徒に防災に対して関心を高めてもらう目的で実施されるものです。目的としては・大規模な震災発生時の心構え及び防災について考える機会・震災被災地の生活支援について理解を深める・防災活動の意義を理解し実践活動につなげる・生命の尊さの理解、災害時に自他の命を守る姿勢を育てることを学習の目的としています。

本年は6月14日と6月25日に行われました。6月14日は「災害時避難所について」の講演会を生徒と行いました。講師は逗子災害ボランティアネットワークの小林深吾さんが行いました。久木中

学校が避難所になったら、どんな困りごとがありそうかなど、生徒と対話形式で話が進み、避難所とは震災で住まいを失い、地域での生活を失った人の拠り所となり、また在宅で不自由な暮らしを送る被災者の支援拠点となることや・自分の命を守るためにベストを尽くす・先生や友達、周りの人と協力して居心地の良い場所を作る・小さな「困った!」に耳をかたむけるなど、避難所での心

掛けの話があった。6月25日は「体験学習」



を体育館で実施した。長期間にわたって生活の場

「避難所」となる体育館での生活を想像し、中学生が出来ることを考える体験学習を行った。今回は、久中防災倉庫に新たに保管された間仕切り(パーティション)を1クラス2張で10張の組み立てを地域の人と協力して立てることから始めた。組み立ては地域協力者の助言や見本を参考にし、生徒同士の協力で20分ほどで完成した。今回の学習で大切にしている点は、間仕切りの組み立て・間仕切りの中にいる感覚・さまざまな避難者の困りごとを想像し寄り添って解決策を考えることです。当日は視覚障害者の方も参加され、生徒と何が困ることなのかを話し合っていました。さら

に避難所生活では予想をしない問題や、小さな困ったに耳をかたむけどうしたら解決できるかも生徒同士で意見交換した。地域としては災害時だけではなく、平時もふだんの暮らしの中の身近な人の「色々な困った」に耳をかたむけ、みんなが居心地の良い地域社会にしていきたいと考えております。

今回の企画・運営をしていただきました龍村様、スタッフの皆様、ありがとうございました。とても有意義な企画で、中学生と一緒に体験できたことは良かったです。これからも地域防災について考えていきます。

《トピックス》

昭和時代が活きている、そして・・・ 三浦市南下浦町毘沙門のスイカとメロン

細野 裕 (当会会員、三浦市毘沙門在住)

●2021.7.10のことです。

お昼頃にクロネコやまとの宅急便から電話があつて、今、毘沙門のお宅にいます。冷凍のものを持ってきたんですけど、って言うもんだから、ゆたかさんは今、逗子の久木にいますので、もし、できたら家に入って冷蔵庫に入れてってくれたら嬉しいんだけどと言ったらクロネコやまどさん、電話切らないで、

「じゃあ、玄関入ります。猫が出てきました、冷蔵庫見えました、開けます、冷凍庫を見えます、入ります。」

って言って入れてってくれた。おかしいねえ。

三浦最高。

農家が多いからなんだろうなあ！

帰ったら冷凍庫に荷物入ってました。

クロネコやまとの続きの話

●18時

こんちは一って声がするので、パンツいっちょで出てみると、なんとなんとクロネコやまどのおじさん。荷物ありましたか一って言うじゃありませんか。あなたが冷蔵庫に入れてくれたの？ありがとうございました。えへへだって。今、隣のうちに荷物を集配しに来たもんで、車が駐車してあつ

たので寄りましたよって。なんと親切極まりなく、親しみを込めてくださるのでしょうか♪あなたがここを担当してくださるの？いえ、3人でやっていて、その1人です。大きな2トントラックに乗り込んで手を振って、出て行きました。

●毘沙門はそんなことが起こる場所です。

●毘沙門に58歳の時セカンドハウスとして購入した昭和の平屋の一軒家。167坪。

横須賀市の浦賀と行ったり来たりして住んできましたが、決意して、この7月1日から本宅としました。三浦人になりました。ここは農家のど真ん中。この夏はスイカとメロンを生産してる農家に囲まれています。この毘沙門のスイカとメロンの美味しいこと、言葉がありません。私、知りませんでした。こんなに美味しいスイカとメロンが採れていたなんて。海の夜風と霧の潮風がきくと美味さを倍増しているんでしょう。宮川湾から立ち上ってくるのですから。食べたらわかります。食べなければわかりません。久木住民協の朝市に協議会の下、出品しました。あつという間に売れてしまいました。

駄洒落栖人

since 1997 ®

《連載》 未病・健康に関することV

\$ 食と口腔ケア I

(本稿のまとめ 鈴木 為 之 (山の根在住))

健康を維持するのに必要な栄養=食は、歯でよく噛み砕かれて口から胃に入り、そこから連なる消化器で吸収されて体内へと入っていきます。その入り口の歯と口のケアが健康寿命を伸ばすのに大変重要であることがわかってきました。また、歯は食べ物を噛み砕くだけではなく、話す・力を入れる・表情を作る・糖尿病予防等々、生活の色々な面に関係します。

噛む力を保つことで歯と口のトラブルを予防するだけでなく、下の図のような様々な健康効果が生み出されます。



① 歯と口の病気を防ぐ

噛むことで分泌される唾液は口内を浄化してむし歯や歯周病を防ぐ。

② 脳の発達・認知症の予防

口の閉閉により脳に酸素や栄養が送られ、脳機能が活性化される。

③ 発音・表情がよくなる

口周りの筋肉を使うことで発音・表情がよくなる。

④ 肥満を防ぐ

よく噛むことで満腹感が得られ、食べすぎを防いでくれる。

⑤ 胃腸の疲れが少ない

きちんと噛まないと飲み込んでしまうと、胃腸の負担を控く。

⑥ 体力の向上

力を貸ししぼることができることで、この一歩、の場面で力を出せる。

口の周りの筋力が低下すると、かむ力や飲み込む機能が落ちてきます。

これを防ぐために顔面体操が有効です。顔面体操の詳細から次号に続きます。

顔面体操

口の周りの筋肉を動かし、刺激を与えることで、口の機能低下を防いで食べこぼしなどを防ぎます。自分のペースでリズムカルにおこないます。

編集後記

7月22日は「海の日」の休日、暦の上では「大暑」暑さのピークを迎える時期である。

小学校等、学校は夏休み、私の子供の頃(60年程前)は夏休みの宿題帳の天気と気温欄を書かされ、ズボラな私は毎日記載するのを怠り、友達のものを見て対応していたが、今でも記憶しているが気温が30°を超える日が1週間から10日ぐらいであったと記憶している。当時クーラーもなくそれで今程、暑い夏ではなかった様な気がする。夢中になってセミ取りもしたが、当時の夏と云えばニイニイゼミから始まり、アブラゼミ、ツクツクボウシで夏は終わりであったものが最近ではセミの声を聴いても生息するセミの種類も変わり、夏の後半にはクマゼミの声が聞こえる。やはり気候条件が大きく変わり、地球温暖化が進んでいるのだろう。災害リスクも高くなっている。暦の上の季節を表す言葉も変わって行くのだろうか。

事務局長 石井達郎